

診療情報を利用した臨床研究について

虎の門病院分院腎センター内科では、以下の臨床研究を実施しております。この研究は、通常の診療で得られた記録をまとめるものです。この研究では、亡くなられた方の診療情報も、貴重な情報として、研究対象として扱わせていただきます。この案内をお読みになり、ご自身やご家族等がこの研究の対象者にあたるとされる方の中で、ご質問がある場合、またはこの研究に「自分や家族等の診療情報を使ってほしくない」とお思いになりましたら、遠慮なく下記の相談窓口までご連絡ください。

【対象となる方】

調査対象となる期間： 2015 年 4 月 1 日 ～ 2024 年 7 月 31 日の間 に、
虎の門病院分院腎センター内科に入院し、側臥位で腎生検を受けられた方

【研究課題名】

腹臥位困難例に対する側臥位腎生検の有効性と安全性の検討

【研究の目的・背景】

《目的》

当院で経皮的腎生検を受けた患者で、腹臥位ではなく側臥位で受けた患者の実態を明らかにし、側臥位での生検が腹臥位での生検と差なく有効性と安全性を示すことを明らかにする。

《研究に至る背景》

1954 年に吸引穿刺針を用いた腎生検が本邦で臨床応用されて以降、腎臓内科医にとって経皮的腎生検は腎疾患の原因精査のために行われる標準的な検査手技です。経皮的腎生検は腹臥位で行われることが多いですが、腹臥位は呼吸困難や迷走神経反射による気分不快が多くみられ、患者さんによっては負担が大きい場合があります。しかし腹臥位がとれないことを理由に腎生検が見送られ原疾患が不明なまま治療されている慢性腎臓病患者が本邦には数多く存在します。腹臥位をとることが困難である例においては側臥位や座位で腎生検が行われます。これまで妊婦や高度肥満・呼吸疾患を有する腹臥位をとることが困難な患者において側臥位で生検がされた報告が複数あります。当院においても、より腹臥位が困難な病態の患者や、患者さんご本人の希望に応じ側臥位での腎生検を選択してきました。本研究では側臥位で腎生検を受けられた患者さんの特徴と有効性・安全性を検討することを目的とします。この検討により、全国で腎生検が必要な人が適切に腎生検を受け、より適切な治療を受けることが可能となることが期待されます。

【研究期間】

2024 年 9 月 25 日 ～ 2026 年 3 月 31 日

【個人情報の取り扱い】

お名前、ご住所などの特定の個人を識別する情報につきましては、特定の個人を識別することができないように個人と関わりのない番号等におきかえて研究します。学会や学術雑誌等で公表する際にも、個人が特定できないような形で発表します。

また、本研究に関わる記録・資料は 虎の門病院分院腎センター内科 において研究終了後 5 年間保管いたします。保管期間終了後、本研究に関わる記録・資料は個人が特定できない形で廃棄します。

【利用する診療情報】

診療情報： 検査データ、画像(X 線・CT・MRI 等)所見、診療記録薬歴、看護記録など

【研究代表者】 虎の門病院分院腎センター内科 澤 直樹

【虎の門病院分院における研究責任者・研究機関の長】

研究責任者：虎の門病院分院腎センター内科 澤 直
樹 研究機関の長：分院長 竹内 靖博

【利用する者の範囲】 該当なし

【研究の方法等に関する資料の閲覧について】

本研究の対象者のうち希望される方は、個人情報及び知的財産権の保護等に支障がない範囲内に限られますが、研究の方法の詳細に関する資料を閲覧することができます。

【ご質問がある場合及び診療情報の使用を希望しない場合】

本研究に関する質問、お問い合わせがある場合、またはご自身やご家族等の診療情報につき、開示または訂正のご希望がある場合には、下記相談窓口までご連絡ください。

また、ご自身やご家族等の診療情報が研究に使用されることについてご了承いただけない場合には研究対象といたしませんので、2025 年 3 月 31 日 までの間に下記の相談窓口までお申し出ください。この場合も診療など病院サービスにおいて患者の皆様に不利益が生じることはありません。

【相談窓口】

虎の門病院分院 腎センター内科 大庭悠貴
電話 044-877-5111(代表)